

すぎなみ環境目的税(レジ袋税) に関するご提案

2004.7

NPO法人 循環型社会研究会

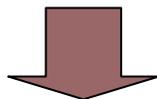
ご提案の背景

● とかしき議員による循環研セミナー

- 2004年5月26日
- 杉並病がきっかけとなったレジ袋税の行方
－杉並区の環境税、真の目的を達成するには－

● 杉並区でのフィールドワーク

- 2004年6月25日
- レジ袋削減運動等についての説明……生活経済課 井山課長
- 清掃施設等視察……杉並中継所、杉並病被害者宅、杉並清掃工場
- レジ袋関連視察……オーケーストア荻窪店、南阿佐ヶ谷すずらん通り商店街



区外第三者の中立的な立場からのご提案
(とかしきなおみ議員の政治的な立場とは独立的に検討)

レジ袋税報道に対する素朴な印象

- なぜレジ袋に税金なんだろう
 - もっとほかにもかけるべきものはありそうだ
 - レジ袋ってそんなに重大な環境問題だろうか
- おもしろいことをする区だな
 - 社会実験としてはおもしろい
- 区民や事業者はよく賛成したものだ
- 区界の商店はつらいだろうな
- うちの区や市でなくてよかった

「画期的な地方環境税」との印象はなかった

すぎなみ環境目的税検討の視点

① 条例制定の
経緯

③ 区民・事業者
の受容性

すぎなみ環境目的税
(レジ袋税)



② 地域環境税
としての有効性

④ 費用対効果
・影響

条例制定の経緯からの検討-1

- 最初に法定外目的税の創設ありき
 - 平成12年9月 区税等研究会報告が出発点
- スタート時は区民の環境意識高揚が目的
 - 本税は1人ひとりの区民・事業者に環境保全の重要性を訴え、ともに環境先進都市を創っていこうと呼びかける契機である
- 「環境目的税」としての位置づけは後から
 - レジ袋税調査会議が終わった後に「環境目的税」という名前が上がってぽんと出た
 - 環境目的ということであれば、もっと環境対策でやることがあるんじゃないか

目的・議論のねじれ

条例制定の経緯からの検討-2

- 導入時の課題調査結果も踏まえ提案されたが、平成13年12月区議会全員協議会紛糾 年をまたぎ継続審議
- 平成14年3月18日 付帯決議とともに可決

5項目の付帯決議に本条例の問題点が表れている

- ① 環境施策の全体像や廃棄物の減量・リサイクル推進の中での位置づけの検討が不十分
- ② 区民・事業者の意見反映や説明が不十分
- ③ 施行するには環境分析や議会での議論が不十分
- ④ 税の使用用途や収支についての検討が不十分
- ⑤ 税の徴収事務負担に関する検討が不十分

地方環境税としての有効性-1

- そもそも地方環境税は優れた政策手段か？
 - 政策効果が発揮されるほど税収は減少する
 - レジ袋が使われなくなれば税収はゼロに
 - 税収が減っても一定の徴税コストはかかる
 - 地域限定課税で問題は解決するか
 - レジ袋を無料提供しているのは杉並区だけじゃない
 - 納税が免罪符になる可能性がある
 - 高い税金を払って環境保全に貢献するんだ。使って何が悪い。

地方環境税としての有効性-2

- **すぎなみ環境目的税(レジ袋税)は優れた地方環境税といえるか?**
 - 原因(または受益)と負担の関係が不明確
 - 財源獲得のために取れるところから取るという「課税都合税」のように見える
 - 事業者の負担が大きい
 - 納税事務負担、顧客とのトラブル・離反、肩代わり
 - 納税回避のための消費者の域外流出の恐れ
 - 区の経済・財政的ダメージ

政策手段の選択として疑問

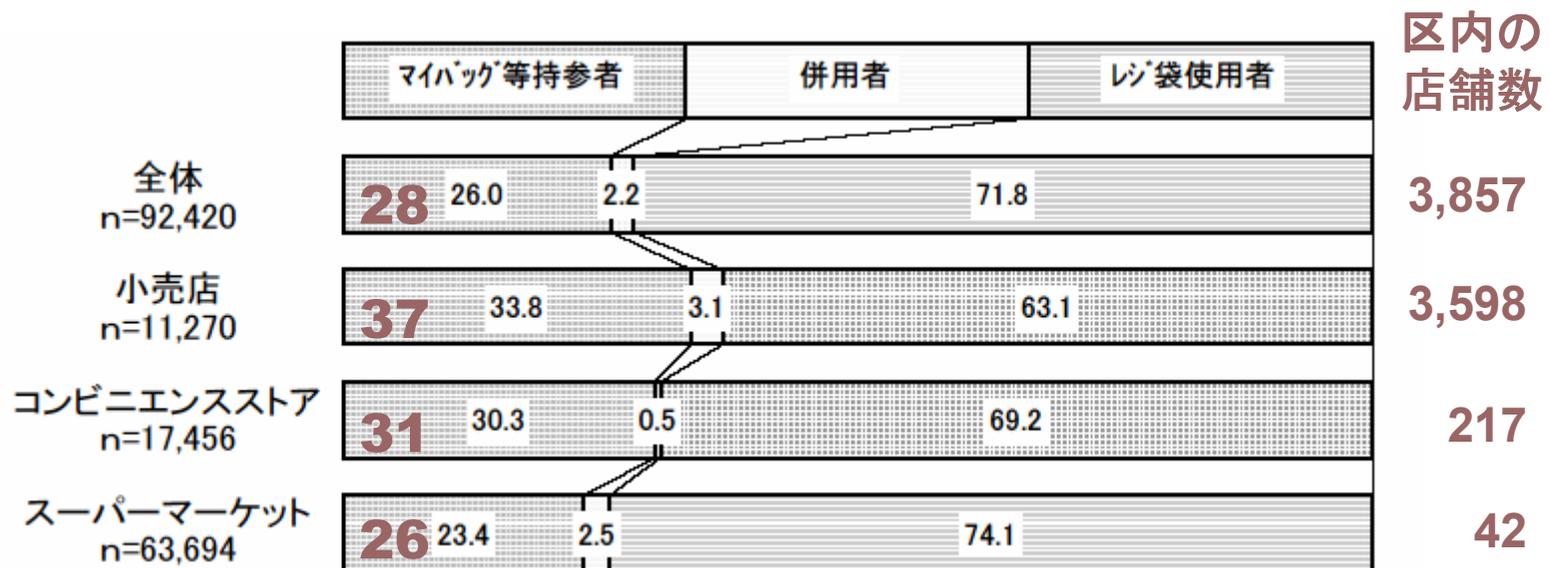
区民・事業者の受容性-1

- 区民=消費者の受容性は確かめられていない
 - 区民の賛否の態度が踏まえられていない
 - レジ袋税に賛成の人は?%、反対の人は?%
 - 税金は嫌だが、罪悪感もある
 - 5円くらいならいいか?
 - 5円払えば使ってもいいんだな。
- 事業者の受容性は低い
 - 納税事務負担、顧客とのトラブル・離反...
 - ほとんどの事業者がレジ袋税に反対

区民・事業者の受容性-2

- スーパーを除けば目標値の33%に到達
 - 区内40店舗ほどのスーパーの攻略が課題

マイバッグ等の持参状況(2004年1月調査)

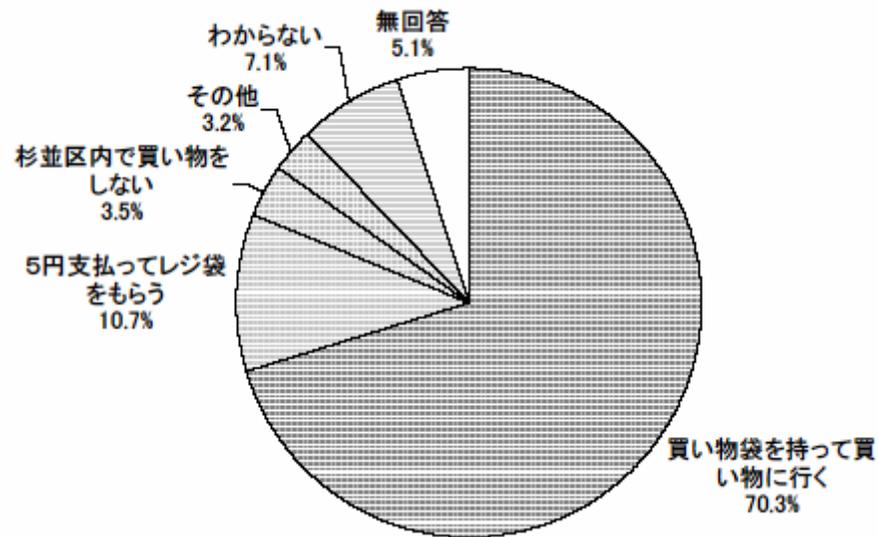


区民・事業者の受容性-3

- レジ袋税導入なら7割がマイバックを持参
 - しかし、これはレジ袋税に賛成という意味ではない。

**マイバック利用
の受容性は
低くない**

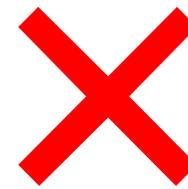
環境目的税導入後に予想される行動
(2004年1月調査)



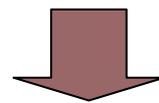
区民・事業者の受容性-4

● アメとムチによるレジ袋削減

- アメ=エコシール
- ムチ=レジ袋税



区民は行政の家畜でも奴隷でもない



参画と協働による仕組みづくり

(一般廃棄物処理基本計画の計画理念)

費用対効果・影響の検討-1

- 現在のアメ=エコシールやマイバック運動により、レジ袋を約30%削減でき、
- さらにムチ=レジ袋税導入で60%まで削減ができたとする。その費用対効果は.....
 - 費用(年間)
 - エコシール事業・マイバック運動費 8千万円
 - レジ袋担当職員人件費 7百万円×4名=2千8百万円
 - レジ袋税周知活動費 8千万円
 - 税務担当職員人件費 7百万円×6名=4千2百万円
 - 徴税用システム導入運用費 1億円
 - 事業者への特別徴収事務手数料 4億円×5%=2千万円
 - 計 3億5千万円

費用対効果・影響の検討-2

- 一方収入効果は...

- 収入効果(年間)

- 税込 4億円=区内使用枚数2億枚×40%×5円
- レジ袋処理費削減 1億円×60%=6千万円
- 計 4億6千万円

区外購入、区内廃棄を誘発すると収入効果は激減！

- レジ袋削減・課税のための行政費用を差し引くと、他の環境施策費用に回せるのは1億円程度？

- 区民の環境意識高揚効果は...

- アメとムチでの意識高揚は知っている。むしろ反感も

- 消費の区外流出等の悪影響も懸念される

そもそも5円の課税によるレジ袋削減効果は一時的では？

結論

- レジ袋税の実施は性急にすべきではない。

理由

- 条例制定過程で指摘された問題が未解決
- 政策手段としての環境税の選択の合理性に疑問
- 区民・事業者の納得が得られていない
- 導入費用が高く、区内経済への悪影響も懸念
- レジ袋削減効果、区民の環境意識高揚効果に疑問

- レジ袋削減への別のアプローチがある
- レジ袋税より優先すべき環境課題がある

レジ袋削減への別のアプローチ

- 区民・事業者の参画と協働があり
- 区民にも事業者にもメリットがあり
- 環境意識高揚効果も高い方法

テポバッグ

「デポバッグ」とは

- マイバッグを忘れたとき、
レジ袋の代わりに誰でも使える

「デポジットバッグ」



- 使うときには110円を払う
- お店に返却したら100円戻される
- 差額の10円が利用料で、うち5円をお店の手数料、5円を区の環境基金(仮称)への寄付として分配
- 気に入ったらマイバックとして継続使用もできる

デポバッグが使われるためには

- 100円相当以上の価値をもつ
買物袋を提供する
- お店がレジ袋ではなく
デポバッグを推奨する
- デポバッグの使用が
環境貢献につながる実感

デポバッグの調達方法

- 区が不用なマイバッグの100円での提供を区民に広く呼びかける
 - デポバッグの条件
 - 布製の持ち手のついた買物袋(プラスチック製は不可)
 - かさばらず丈夫で繰り返し使えるもの
 - やぶれや汚れのないもの
 - 100円相当以上の価値があると思われるもの
- デポバッグ協力店がそれを100円で買い取ってサービスをスタート
 - 協力店(事業者)は独自にデポバッグを調達してもよい
 - 区民は自分の好きな協力店にデポバッグを提供・返却できる
 - 協力店は条件を満たすものは基本受け入れなければならないが、条件に合わないものや多量の場合は拒否できる

デポバッグ協力店を環境教育拠点に

- **「買物袋はお持ちですか?」「お持ちでなかったら是非デポバッグをご利用ください」と、レジ袋削減を自然に誘導**
- **区はデポバッグ協力店をエコライフの啓発普及拠点として積極的に推奨・支援**
 - 詰替容器、簡易包装、量り売り、エコ商品・サービスの提供
 - 商品のLCA、トレーサビリティ情報の提供
 - それぞれの分野・業態からのエコライフ提案
 - トレー、紙パック、ペットボトル、レジ袋等の店頭回収

デポバッグへの参画成果の告知

- 区は、「すぎなみ環境基金(仮称)」を創設・管理

※基金は寄付金の公開管理に徹し、無駄な職員採用や事業活動は行わない。

- デポバッグ協力店は、定期的に利用料のうち半額(10円のうち5円)を基金に寄付

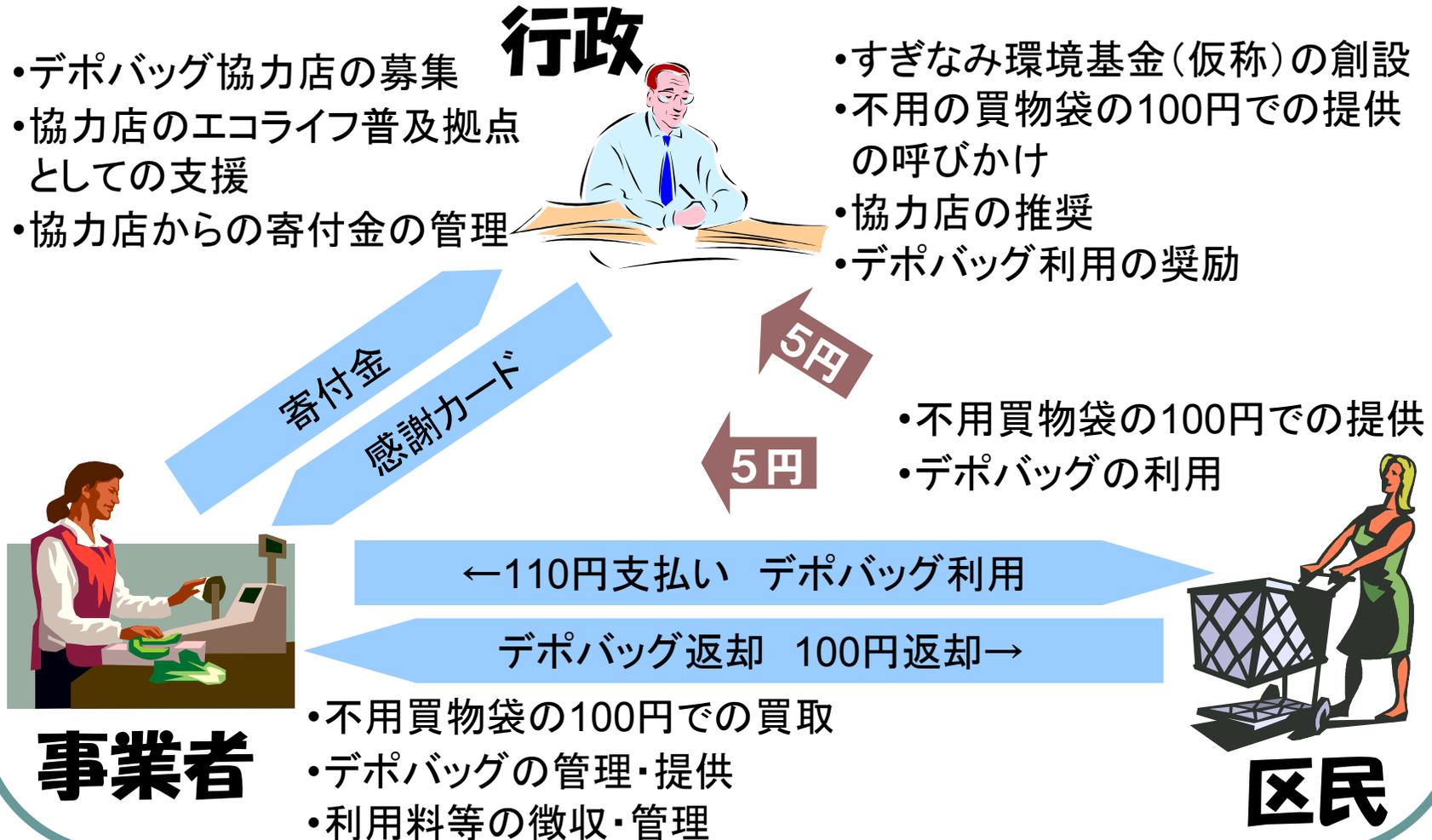
- 区(基金)は、寄付金額と、協力のお礼、基金の主な用途(環境貢献)等を表記した「感謝カード」を各協力店に送付

- 協力店はその「感謝カード」をデポバッグの近くに掲示

- 区(基金)は、年間の協力店の寄付金額を公表

- スーパー、コンビニ、商店街、個人店などの業態別に優良協力店を表彰。

デポバッグの仕組みと各主体の役割



デポバッグの本質

- 家庭などに眠っているマイバッグを有効活用し、
- 安価（実質10円）な「リユースバッグ」として市場に普及させることにより、
- レジ袋使用の削減と、
- 環境意識の高揚、環境保全費用の確保を図る、
- 区民・事業者・行政の協働システム

デポバッグのメリット

- 区民にとってのメリット
 - 家庭に眠っていたマイバッグの有効活用で環境貢献
 - マイバッグを忘れてもレジ袋を拒否できる
 - 110円でマイバッグが入手できる
 - 返却すれば負担は10円、それで環境貢献も
- 事業者にとってのメリット
 - 売れ残った在庫マイバッグや販促バッグの有効活用で環境貢献
 - デポバッグの提供、返却のためにお客様が来店
 - デポバッグの管理で手数料収入
 - レジ袋の無料提供費用の削減
 - デポバッグ協力店として区の推奨・支援
- 行政のメリット
 - レジ袋削減、環境意識高揚、環境保全費用確保の実現
 - トレー、紙パック、ペットボトル、レジ袋等の店頭回収の活性化

是非デポバッグ導入のご検討を

- すぎなみ環境目的税(レジ袋税)導入の前に.....
- すぎなみ環境目的税(レジ袋税)条例があるからこそ、デポバッグの受容性は高い
- デポバッグ導入によって、「すぎなみ環境目的税(レジ袋税)」は、施行されないまま政策目的を達成する「**画期的な地方環境税**」となる。

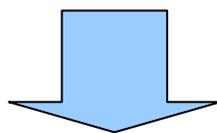
レジ袋税より優先すべきことがある

- 杉並区環境基本計画……4つの挑戦
 - 二酸化炭素排出量削減
 - 有害化学物質削減
 - 一人一日ごみ量を東京都で最小に
 - 杉並区をみどりの道でつなぐ
- 杉並区一般廃棄物処理基本計画
 - 環境に配慮した生活行動を実践していく社会
 - 杉並中継所を不要なものとする

これらの政策課題にレジ袋税はどれほど貢献するか

優先すべき環境課題と対策

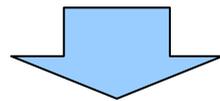
- 「杉並病」対策としての不燃ごみの削減
 - 杉並区の環境問題として最初にイメージされる
 - 杉並区全体のイメージをダウンさせる
 - 実際に苦しんでいる患者がいる



プラスチックごみ等の分別排出の徹底
有料化によるごみ量全体の削減

プラスチックごみ等の分別徹底

- 現状は店頭回収依存で、家庭からの排出時点での分別が徹底されていない
- いまやほとんどの市区町村で行われているペットボトルの分別排出すら行われていない
- 結果として、「不燃ごみ」にあらゆるものが混入している
→ 圧縮・中継時に有毒物質発生可能性拡大



- 家庭からの排出時におけるプラスチックごみ等の分別排出の徹底を
- 分別排出は、ごみ減量・リサイクル率の向上とともに区民の環境意識高揚効果も高い

有料化によるごみ量全体の削減

- ごみ有料化が全国的な傾向に
 - すでに環境省はごみ有料化の方向に舵を切っている
 - 国民のごみ有料化に対する受容性も高まっている
- 東根市の有料化
 - 40リットル20円では、1年半後にごみ量が増加
- 日野市の有料化
 - 40リットル80円、5リットル10円で、ごみ量半減

減量インセンティブが働くように
細かな排出単位(指定ごみ袋の大きさ)設定と
一定以上の料金設定が重要

「杉並病」の原因究明と対策を

- 中継所が原因であれば、他の中継所のある地域でも被害が考えられる。
- パッカー車が原因物質を撒き散らしているとなれば、すべての都市での被害が考えられる。

杉並区には「杉並病」はない？
しかし、
すべての地域に「杉並病」があるかも知れない。

参考：循環研会員の声

- レジ袋に課税するということには違和感を覚えた。それよりも 訪問したスーパーのように、レジ袋の無料配布を条例で禁じ、必要な人に販売した方がよい。
- レジ袋を減らすことも大切かもしれませんが、それよりも早急にゴミ自体の総量を減らす必要がある。
- もし課税方式でゴミを減らすのであれば、区内の自動販売機に課税するとか、使いきりペットボトルの販売に1本当たり10円課税するとかの方が良いのでは。
- 欧米諸国のように区内専用ゴミ袋を販売し、そのゴミ袋を使わなければゴミを回収しないようにしてはどうか。
- 自治体が無料で(税金で)ゴミを回収している間は、日本ではなかなかゴミは減らないと思います。各人の排出量に応じてゴミ処理費用を徴収する仕組みづくりが必要と思われる。

参考：循環研会員の声

- レジ袋税は環境保護への意識付けとしては効果があることと思います。しかしスーパーの中で見学したとき、レジ袋でない透明のビニール袋も必ずといっていいほど捨てられるものではないかと思いました。レジ袋とマイバッグの組み合わせで効果があるようなら、次にタッパーとお惣菜の組み合わせ、さらにガラス瓶と飲み物(ペットボトル)という風に発展していてもよろしいかと思います。杉並区をドイツのどこかの都市と姉妹提携したらいかがでしょうか。
- 税率はマイバッグを意識付けするには少し安いかなと思います。諸外国では17円のところもあるのですから。
- 一方問題もあります。レジ袋を必ず使う商売があるのです。弁当屋です。容器から汁が漏れてくるのは必至ですから紙袋ではいけないのです。となると「分解可能なレジ袋」か「丈夫な紙でできた弁当箱」が必要かも知れません。まあいずれにせよ税金が分解可能なものをつくるといった研究費の助成金へ還元されればよいと思います。
- エコシールも見せていただきましたがシール25枚で100円相当の買い物券ではあまりにも安すぎる気がしなくもないです。ですからシール25枚で福引抽選ができ、あたればハワイ旅行とかあるといいかもしれません。最低でも板チョコ一枚という感じで。

参考：循環研会員の声

- まとめ
 - ①税率はもう少し上げて良いのではないか？（5円から10円へ）
 - ②食品トレイのゴミも深刻なので、段階的に
 - ③啓発効果としてエコシールでなく福引券にすべき
- 杉並病の患者さんは大変気の毒です。96年ぐらいにマスコミで騒がれていたのを覚えています。そのころ所沢のダイオキシンが大々的に報道されていました。もう国民の大多数は杉並病を忘れていていると思います。
- では根本的な解決はどうするか。多分症状から推察してペットボトルやビニール類の粒子がホルモン系に作用しているのと何らかの重金属がアレルギーを誘発しているものと思います。
- 重金属を誘発しやすいゴミ→乾電池や蛍光灯、鏡などのガラス品など。まず
 - * 乾電池、蛍光灯などのゴミは必ず販売業者が無償で引き取る。
 - * ゴミになる金属製品は再利用しやすいように塗装を最小限にすべきくらいしか思い浮かびません。

参考：循環研会員の声

- 午後の見学で、オーケストアとすずらん通り商店街を見たが、区民は全体的に「あまり関心がない」のではないかと感じた。
- レジ袋に関する杉並区からの発信を、せめて東京都全体の問題として審議することも必要ではないかと思われてならない。
- 杉並中継所に端を発したと思われる「杉並病」の原因については、この中継所を設計し、製作及び据付試運転を行ったプラントメーカーが、徹底的に究明し、改造を行うべきだと思う。プラントメーカーには「製造物責任」があり、その原因がわからないようではプラントメーカーの資格がない。関係者がもう少し冷静に判断され、プラントメーカーに聞き及ぶことが大切であるし、また、プラントメーカーとしても当然、原因追究することが責務として避けられないと思われる。私もプラントメーカーに勤務していたが、通常、プラントメーカーがフルターンキー受注したものは、設計・製作・据付・試運転を行い、一定期間フォローアップすることによって、きちんとハンドオーバーするものだ。このような事案については、「クレーム処理」の形で処理するものだ、と思われてならない。